

その3 ヒグマ

森のおとなりさん、 ヒグマを知って安全に。

北海道の動物といえばヒグマ。
キャラクターとしてはカワイイけれど、
出ればコワイ！
みんなもヒグマのことを
きちんと知って
「アブナイ行動」を減らしましょう。



エゾヒグマ

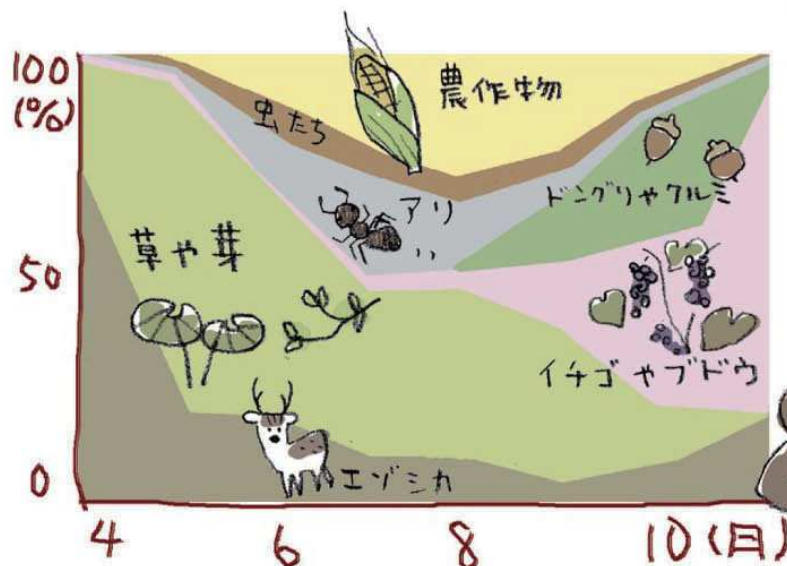
ヒグマは何を食べているの？

食べ物のほとんどがフキやドングリ、野イチゴなどの植物です。サケが上がる川にすむ幸せなヒグマは少なく、死んだシカを食べることもあるけれど、家畜や人間を食べることはまずありません。

ヒグマの長いツメは草の根を掘るのに便利で、ドングリをかみつぶす奥歯も発達しています。

だから北海道のヒグマは、「ベジタリアンになった肉食動物」と呼べるでしょう。

絶滅したオオカミと違い、時代に応じて何でも食べる雑食の生き方と冬眠の習性がヒグマを守っているのかもしれませんが。でも最近は畑を荒らすヒグマが増えています。農家の方が困るし、人里に近づくのでとっても危険。荒らさせない工夫が大切です。



(グラフ)ヒグマの食事 季節のメニュー

トウキビ
やられて
しまったよ



被害を受けた
トウモロコシ畑

なぜ事故が起きるの？

ヒグマと人の事故を調べると「食う」ために襲った例はほとんどなく、「山菜採りや釣りの人と出くわしておどろいた」か「追ってきたハンターへの反撃」がほとんど。出あい頭がキケン！ だから「山で出くわさない」ことが何より大事です！



ヒグマに出くわさないために



ヒグマは耳と鼻がとても敏感です。ですから、森に入るときは鈴などで音を立て、ヤブへ入る前に「おーい！入るよ」と叫び、パンパンッと拍手してこちらの存在を知らせましょう。出没情報やヒグマが通った跡にも気をつけましょう。土に残る足跡、フキを食べた跡、林道のフン。新しい跡だったら引き返してください。



写真はどちらもヒグマのふん。大きいよ。食べたものによって色もさまざま

ヒグマを近づけないために

●生息地の近くでは...



外遊びのときに食べ残しを捨てたり、釣った魚をテントの近くに置くのは危険です。生ゴミもしっかり始末しましょう。



●住宅街に出てくるヒグマも

近ごろ、町に迷い込むヒグマも増えてきました。そんなヒグマの近くで大声を出したり、ペットの犬がほえると興奮して危険です。出没情報があるときは草むらや林に近づかず、生ゴミを出さないようにしましょう。

●ヒグマはおぼえる！

最近、ハンターが銃を撃つと近づいてくるヒグマがいます。「ハンターの近くにはシカの残がいがある！」と学習したのでしょう。ゴミの始末に気をつけなくちゃいけない理由もわかりますよね。「人間に近づくとおいしいことがあるぞ」とヒグマに思わせないことが大切です。



もしも出あったら.....



コワくても走って逃げたり、大声を出すことは絶対ダメ。距離があれば、様子を見ながらゆっくりはなれてください。また、近くの人たちと手をつなぐと襲われにくくなります。襲われて、クマ撃退スプレーを浴びせたり、ナタで戦ったり、首筋を守りながら伏せて助かった人もいますが、とても危険です。あわない、近づかせないのが一番です。

ヒグマは、突然出くわし、人間が不用意な行動をとると攻撃的になるのです。「おきを見て襲いかかる恐怖の猛獣」ではなく、「危険性を秘めた森の隣人」だと思えます。北海道というこの島で、ヒトとヒグマがともに生きていけるよう、ほどほどの距離を保つ「つき合い方」を考えませんか。

